

授業概要

昨今多くの外国人が日本を観光等で訪れる。そうした外国人を街で見かけるときに日本文化とは何かを改めて考えることも多いと思う。日本文化と聞くと「国風文化」が思い浮かぶが、この文化は「国風」という名は冠しているものの極めて外国色強い多様な文化であった。本講義ではこのような観点から主に近代以前（古代から江戸期）を対象として、日本の文化のもつ多様性やそれらが現代の日本にどのように接続しているかを講義する。日本文化の根幹を理解し文学研究に生かして欲しい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション。受講上の注意。基礎知識の確認。授業の導入
第 2 回	古代の古墳が伝えるもの—陵墓と天変地異
第 3 回	神話の世界—古事記や日本書記の逸話
第 4 回	鬼はどこから生まれたか—物の怪（もののけ）や鬼・異形（いぎょう）が問いかけるもの
第 5 回	お参りと出家—浄土への憧れ（仏教の始まり）
第 6 回	国風文化の中の異国—唐土（もろこし）の文化（青磁・紙）の影響
第 7 回	武士・大名の世界と彼らの教養—何を所有していたか
第 8 回	百人一首の流行とは何か—どうして続いているのか（含：ちはやふる）
第 9 回	繰り返す青海波—王がそれを会得する意味
第 10 回	切支丹（キリシタン）の存在
第 11 回	中世の無常観とは何か—本当にあったのか
第 12 回	能楽と静寂—あの世とこの世を繋ぐ橋
第 13 回	歌舞伎文化と男性性・女性性
第 14 回	聖地巡礼—ジャパニメーションの影響（新海誠・宮崎駿など）
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	期末試験

到達目標

- ① 日本文化について理解を深め、講義で取り上げたそれぞれのトピックについて問われたとき概略を説明できる。
- ② 日本文化の今後の課題について立案することができる。

履修上の注意

・ただ出席するのではなく、メモを取り積極的な態度で授業には臨んでほしい。

予習・復習

予習：毎回授業の最後に次の授業の参考文献／資料を指示するので、それについて目を通しておくこと。

復習：授業後に残った疑問点は資料を読み毎回持ち越さず解決しておくこと。

評価方法

期末試験（70%）・受講態度（30%）で総合的に評価する。

テキスト

特に学生個人が用意する必要はない。必要に応じて資料を配布することがある。参考文献は講義の最後に適宜紹介するので、情報メディアセンターなどを利用して読んでおくこと。